「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」

平成 21 年度第 1 回連絡会議 議事概要

日時：平成 21 年 6 月 30 日（火）

13 時 30 分～15 時 40 分

場所：四国森林管理局 大会議室

- 1 開会挨拶 中島指導普及長
 - (1)名簿、議事概要、配付資料等の局ホームページでの公表について了承
 - (2)マスコミの会議傍聴、写真撮影等について、了承
- 2 四国森林管理局長挨拶 篠田局長
- 3 委員等紹介 指導普及課長
- 4 議事 司会：指導普及課長
 - (1) 「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」
四国山地緑の回廊(剣山地区)モデル地域実施方針について
資料 1 に基づき指導普及課鹿熊企画官から説明
 - (2) 剣山、三嶺地域にかかる関係機関のシカ害対策等について
(平成 21 年度の計画)
 - ア 四国森林管理局
資料 2 - 1 に基づき企画官から説明
 - イ 環境省中国四国環境事務所野生生物課
資料 2 - 2 - 1 及び 2 - 2 - 2 に基づき、久保課長から説明
 - ウ 徳島県自然環境課
資料 2 - 3 及び追加資料に基づき、竹原課長から説明
 - エ 高知県鳥獣対策課
資料 2 - 4 及び追加資料に基づき、井上課長から説明
 - オ 高知大学理学部
資料 2 - 5 に基づき、石川教授から説明

(3) 「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」
四国山地緑の回廊(剣山地区) モデル地域
平成21年度実施計画について
資料3に基づき、企画官から説明

それぞれについて、質問、意見等なし

(4) 意見概要

・外国の事例について紹介

アメリカでは、東部の広葉樹林地帯でシカ害が顕著、平方キロあたり5から6頭が適正と言われている。シカ食害地は電流柵等で植生を回復させている。人手をかけて生息調査を実施し、データに基づいた管理をしようとしている。ドイツ、イギリスでは狩猟による頭数調整をしているが、不十分で、ドイツでは防護ネットで、イギリスでは保護すべき樹木にはチューブ(ツリーシェルター)で被害対策をし、動物との共存をしようとの考え方。

・絶滅危惧種の保護について、危機的なものもあるので、植物園等での保護、増殖も必要。その後、地域での保護活動と連携が必要。

四国は地質的にも恵まれた環境にあるので中長期的視点には、生態バランスを調整しながら、ある程度自然に任せることも必要。

・絶滅危惧種については、緊急的な対策でとりあえず回復。

環境省で分布等のデータを持っていると思うが、その活用は。

・国指定剣山山系鳥獣保護区一帯における希少植物の分布データはあるが、保護のため、公表していない。ただし、希少植物の保護を図る上で必要がある場合は相談してほしい。

シカ防護資材は購入済み。今後はボランティアの方々の協力を得ながら、設置したい。

・種の保存の観点からは、現地にはなくなったが、例えば植物園にはあると言うような場合の取扱も必要。

- ・三嶺を含む四国のシカ害については、各機関の体系的対策が必要。その上で各機関がそれぞれの役割を果たすことが重要。

希少種については、後手に回ったが保護柵の効果は抜群。

- ・本事業の実施方針、実施計画に基づき、連絡会議、個別の調整により、実施していく考え。

- ・シカ害を考えれば、森林整備には配慮が必要。

対策を講じるには、現地の実態に応じ優先順位を付けて取り組むことが必要。

- ・ユズでのシカ被害も顕著。黄色のテープを回したところにはシカが近寄らないと言う話も。3月に広葉樹を植栽した際に、チューブも巻いたが、黄色のテープも巻いたところ今のところ被害がない。参考として。

- ・生態系保全のためには、鳥獣保護区、自然公園においても、管理捕獲は必要。個体数調整には、データに基づく管理が必要。各機関のデータのとりまとめが必要。捕獲した個体の科学的データ分析も重要。個別には関係機関間の連携が進んでいるところもある。さらなる連携の強化が重要。

- ・来年は名古屋で生物多様性の COP10 が開催され、中部地方では官民の連携が発展。四国でもこのモデル事業による連携が、四国全体に拡大することが望まれる。

- ・生態系に危害を及ぼす生物種については適正な個体数管理を行うということは生物多様性基本法にもうたわれており、ネット等による対策は抜本的なものではない。危害を及ぼす生息密度を超えて生息している場合は、天敵がない現状では積極的なコントロールが必要。各地域での捕獲目標の設定などによる管理が必要

- ・剣山、三嶺地区を中心とする四国東部における個体数調整をどのようにしていくのかと言う広域的な視点での考える必要。環境省などが中心となり、それぞれの機関がそれぞれの役割を発揮するような効果的な計画が必要。

- ・各機関の情報の共有が必要。当局もいろいろな機関と調整会議

等を開いているが、希少種の取扱、個体数調整の進め方など本日のご意見のとおり、個別の調整も含め、この連絡会議の場で連携、調整。

- ・モデル地域に民有林を含まず、国有林の緑の回廊だけが区域で、他の地域では緑の回廊で増えた野生動物が民有林に被害を及ぼす心配例も。また三嶺地区では実際に表土の流出等の被害があり、具体的対策として本事業においてネットの設置等を講じることが有効。全域的な対策として個体数調整を基本に、個体数調整を行う際の目標数、具体的調整方法、捕獲したシカの処理方法、例えば「シカ肉を食べて森をまもろう」など標語を作ってもよく、具体的方法を検討することが必要。

- ・これまで体系化できていなかったというご指摘については、本事業により具体的に整理しつつ進めて参りたい。

- ・ミウネの状況はまさに危機的で、ミヤマクマザサの群落の被害は危機的と言える段階まで来ている。本事業を進めるにあたって、危機的であることを念頭に置いて、実施を。

- ・まもる会ではシンポジウム、報告会を開催してきており、ここでの結論は管理捕獲により、シカを減らすこと。本日の会議の方向も同じと理解。

本事業を実施する場合の優先順位の考え方。希少種はなんとか守れた。植生が失われた箇所土砂流出防止や、シカ以外のカモシカ等の動物も危機に陥っているのではないかという懸念。これらを含めて調査してほしい。被害と影響は稜線部が大きいので、優先的に対策を。

- ・個体数調整を進めていく際に、この地域においてはデータに基づいて実施できるよう、本事業により収集される各機関のデータのとりまとめが必要。

- ・香美市で夏に実施する捕獲について、捕獲した個体のデータ収集などの予定は。

- ・暑い時期なので、ハンターの方がどれだけ集まっていただけ

か不明だが、捕獲できた個体は調査する意向。

・昨年囲いワナを設置して捕獲を試みたが、なかなか捕れない。
ワナでは、里のシカは捕獲できたが、山のシカの捕獲は難しい。
成功例が全国にもない。山のシカの効率的な捕獲法の検討が必要。

(5) その他

特になし

5 閉会挨拶 指導普及課長

今後とも、情報の共有、個別の調整も含めて調整を進めることを確認。